

ユニバーサルデザイン

UD

さがみはら

2025 March

Vol. 3

ユニバーサルデザインでインクルーシブ&ダイバーシティなまちづくり

UD（ユニバーサルデザイン）とは…
「みんなが暮らしやすくなるための工夫」のことです。
この通信は、市民協働提案制度事業「ユニバーサルデザイン普及・啓発事業」として地域包括ケア推進課とNPO法人こころづつとが発行するものです。

● 気づくことで やさしくなる
● オフィスも階段も
誰もが自由に動ける場所

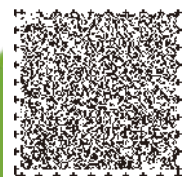


アクセスエンジニアリング開発
movBotのデモンストレーション



ふくしラウンジで高校生に講話する
サイレントフットの佐藤さん

Silent
FOOT



ここ?UD そこ!

気づくことで やさしくなる やさしくなることで 気づく

福祉講演会の講師として招かれることも多いという佐藤さん。これまで小学校から大学まで1万人以上に語りかけてきたその内容は、「よく車椅子の人に手伝えることを話してほしい」といわれます。でも、それはお話できません。まず、家族や友だち、目の前の人に優しい気づきで接してほしいと伝えます。

車椅子は目に見えるけれど、心の傷のように見えにくい障がいを抱える人もいます。まず、気づくことから。気づけばやさしくなれるし、やさしくなるともっと気づくようになれる。まさに、バリアフリーからユニバーサルデザインへと視野が変わる本質ではないでしょうか。

佐藤さんが脊椎梗塞になって車椅子生活者となったのは20年前。体操のひろみちお兄さんを襲った病気と同じですが、彼は奇跡の回復を遂げます。人それぞれとはいえ、自分も回復できたのではないかと気持ちが沈んだそうです。「障がい」とひとりでいってもひとりひとり違っています。気持ちのありかたを含めて丸ごと多様なのです。それをカバーするのは「気づき」と「優しさ」しかありません。

「車椅子の会サイレントフット」は中央区矢部で就労継続支援B型事業所を開設。「障害者相談支援事業所めろんぱん」の開設もすすめ、座間のアガペーセンターでは障がい者フラワー教室を定期的開催しています。また、田名に障がい

者の「グループホームいつもかんしゃ」をサイレントフットグループに迎え、障がい者支援の輪を広げています。

佐藤さんは「車椅子生活になったけど、だから?」と言います。だから、何なのって。目の前の人と出会う、気づきが生まれて、やさしい関係が生まれて、そして、まちができていくといい…。



▲ロゴマークは、フリーハンドでかかれた芽が出る前のタネにも見えるしハートにも見える緑色のソラマメ。そのヘソの部分に白地の英語で「Silent」、その下に間隔をあけて大文字の白い英字で「F・O・O・T」。ふたつの「O」の文字を車椅子の車輪に見立てて「O」の文字に腰かけ、向き合って手をひろげて高くかかげるふたりのシルエットが描かれています。

NPO 法人車椅子の会サイレントフット就労継続支援B型事業所

〒252-0232 相模原市中央区矢部1丁目2-1

ブルージュビル4階・5階

TEL: 042-707-1291 FAX: 042-707-1295

MAIL: info@silentfoot.com



特定非営利活動法人
車椅子の会サイレントフット
さとう としあき
会長 佐藤 利章さん

オフィスも階段も 誰もが自由に動ける場所に

アクセスエンジニアリング開発 movBot office



▶乗車体験のようす



アクセスエンジニアリング株式会社

代表取締役社長 中村 光寿さん

元々ある障壁を取り除くのがバリアフリー。それに対して初めからバリアのない構造にするのがユニバーサルデザインですが、バリアを除かずに障壁がないのと同じ状態にできる技術や商品が相模原市内で開発されています。11月12日、相模原市役所ロビーでアクセスエンジニアリングが開発した movBot office (ムーボットオフィス) の実演、体験が行われました。

通常の車椅子では手が届かない高さにある引き出しも、座面を上昇させると簡単に中を確認し書類を取り出すことができます。筆者は乗車体験をしたことで自動販売機の飲み物のパッケージが車椅子の高さからは見えづらいということを知りました。



▲車椅子から見上げた自販機



▲座面を上げたときの自販機



▲引き出しも座面を上げることで書類が取りやすくなる



そして、市役所ロビーの設備や展示は成人が立っている状態を想定して作られていることに気がつきました。同社は階段昇降ロボット movBot Ace も開発中。加齢や障がいにより階段の昇降が難しい方だけではなく、重たい荷物を持って階段を昇り降りすることが困難な妊婦さんなどにとっても心強い味方となるであろう製品。筆者もエレベータのない建物の5階に住んでいるので、「もし足を骨折なんかしたら家を出られなくなるな」と考えたことがあります。そのときに誰かの手を借りずに階段を昇降できたら出かけることのハードルは格段に下がるでしょう。

開発のきっかけとなったのは、会長の友人の奥様が難病により車椅子生活になったこと。車椅子でも家の中を自由に動けるような商品がないかと相談され、探してみたところ要望に応えられる商品がなかったため、「ないなら造ろう」となったそうです。類似の他製品との差別化を図るためにメカナムホイールを採用し、カニ歩きのような横動きやその場での旋回ができる製品として開発を開始。横動きの技術により団地などの狭い階段でも昇降ができ、旋回の技術によりオフィスや住居をリフォームせずとも車イスで移動できる空間へと変えることが可能になります。

movBot のウェブサイトのトップページにはチーターの写真。その理由を伺うと「大草原を自由に動き回るイメージ。(障がいなどで体の動きに) 制限がかけられていたら自由に動けないけど、制限を外してくれるものがあつたらいいですよ」と中村さん。誰もが自分で自由に動くことができるユニバーサルな空間を movBot は造ってくれています。

アクセスエンジニアリング株式会社

〒252-0244 相模原市中央区田名7361-23

TEL: 042-785-2541 FAX: 042-785-2540

MAIL: movbot@access-eng.com

デジタルトランスフォーメーション × ユニバーサルデザイン

【DX × UD】でユニバーサルな窓口を目指して実証実験

2月に相模原市役所窓口で2種類の機器を使った実証実験が実施されました。

ひとつは住民票の写しを取得する際に、マイナンバーカード等を読み込ませることで、氏名や生年月日等があらかじめ印刷された申請書を作成できるシステム「申請書記入サポートシステム」。

実証実験に使用されている機器には大きなタッチ画面に大きな文字表示の大きな選択ボタン。外国語選択ボタンもあり、6ヶ国語に対応。多くの方にわかりやすく扱いやすい操作性であることがわかりました。

住民票と印鑑証明が必要な場合、



▲タッチパネルを操作
画面も大きくハッキリ。

現在はそれぞれの申請書両方に名前や住所などを手書きで記入する必要がありますが、このシステムが導入されると、必要書類を選択し、マイナンバーカード等を読み込ませることで必要事項が印字された書類を取り出すことができます。印字された書類が出てくるまでにかかる時間は約30秒。

このようなシステムでは窓口の混雑緩和や、市民の

手間を省くなどの「手続きの合理化」が注目されがちですが、実はとてもユニバーサルなシステムでもあるのです。日本語での記入が不慣れな外国人、怪我や麻痺などの障害で紙への記入が難しい方、視力が弱く小さい枠に文字を書くのが難しい方も気軽に利用することができます。

もうひとつは13ヶ国語をリアルタイムに翻訳し、文字として表示できる「翻訳ディスプレイ」。

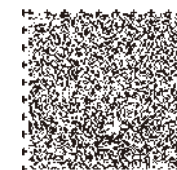
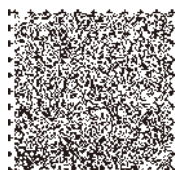
透明のボードを挟んで窓口職員と向かい合って話すことができますので、お互いの表情を確認しながら会話を行うことができます。

今後、代筆や通訳を必要とする人はおそらく増えていくでしょう。DX 機器は、代筆や通訳を介さずとも自分で手続き

ができる、誰にでもやさしいまちになることを手助けしてくれるのではないのでしょうか。



▲ディスプレイをはさんで担当者と対面
お互いの会話が双方に表示。翻訳も可。



UD 作って魂入れる



アリオ橋本の入り口すぐ横にあるのが「お問い合わせコール」。(写真①) インターフォンで買い物のお手伝いをお願いすることができます。その隣には貸し出し用の車椅子。(写真②) お客様が自由に使用でき、店内の通路は車椅子のままでショッピングを楽しめるようにゆとりある幅が確保されており、広い店内を無理なく回れます。館内のエスカレーターは、高齢の方も安心して使えるようゆっくりと動くようにしています。(写真③)

誰もが買い物を楽しめる

ようにという思いがそこにあります。

設備だけではなくありません。アリオにはたくさんのテナントが入っていて、たくさんのアルバイトの人も働いています。みんなにアリオの考えを浸透させることも大切です。アリオで新しく仕事を始める人は、1時間半ほどの入店教育を受けることになっています。

アリオさんの取り組みは、私たちの求めるUD社会の実現に重なるものです。店内ですれ違った車椅子利用者のリラックスした様子が印象的でした。

知っておきたい!

おたすけアプリ



ダウンロードはこちら



UDトーク使い方チャンネル

会話を即座にテキストにしてみんなで共有します。ドラマ『Silent』にも登場。

多言語に翻訳してくれるし、手書き文字・絵も使えて、文字起こしや議事録作成など会話以外にも活用できます。

👉 NPO 法人ここずっとは、UD トーク活用イベント経験を積んでいます。導入についてご相談受け付けます。

お芝居にも簡単に字幕表示
相模原市後援事業
ここ de シネマ第23回
井上弘久ひとり芝居
「十六女郎」公演のようす



新しいコミュニケーションツール UDトーク



日本語の特性として、100%正確に変換することはできませんので、オンタイムで修正していくオペレーターを手配することでテキスト化の精度が高まりますが、文脈から判断もできるので日常的なやり取りでは気にしなくても大丈夫。ZOOM連動も簡単にでき、シンポジウムや会議などネットワークを簡単に組めます。何よりテキストデータが保存できますので、講演録や議事録の作成にも活躍。テキストデータをAIで要約

させて記録を残すことがさらに簡便になりました。

youtube に130本以上の使い方を教えてくれる動画がありますし、LINE にも AI 応答の使い方相談があるので、導入のハードルは高くありません。東京都知事会見がUDトークを使って文字化されているほか、東京都町田市の全庁導入など自治体、大学など（近隣では和光大学など）教育機関から大企業まで導入事例も多数となっています。

▼ 大野南公民館公開講座では講演のUDトークによる字幕提供を支援



▲上映会のアフタートーク
スクリーン右側にUDトークの字幕表示



UD さがみはら vol.3 ■ 2025年3月25日発行
相模原市地域包括ケア推進課・NPO 法人ここずっと



〒252-0303 相模原市南区相模大野 9-6-18
☎042-851-5646 FAX042-742-0447
<http://www.cocozutto.jp/>

UD さがみはら vol.1,2 の音声版は右記QRコードのyoutube チャンネルで聞くことができます。

■『UD さがみはら』は令和6年度市民協働事業の「UD 普及・啓発事業」として発行するものです。

みなさまからのご意見や情報提供を募ります。投稿先⇒e-mail:udsagamihara@cocozutto.jp



@ud_sagamihara



ud_sagamihara